

オオジュリン

Emberiza schoeniclus

ホオジロ科・夏鳥



オオジュリン（オス）

名前の由来

大きなジュリンの意で、「ジュリン」は秋冬の「チュイーン」という鳴声によると言われる。漢字名：大寿林

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）16cm、両翼を開いたときの長さ25cm。スズメくらいの大きさ。

オスの夏羽では頭と喉が黒く、その間に白い線がある。首の後から胸まで白く、腹も白い。背中が赤茶色。

メスは頭が褐色で喉は黒くない。

声：ゆっくりしたテンポで「ジョッチッチィ」「ジョッチィーチィーチィーチュリリ」などと少し濁った声でさえずる。地鳴きとしては短く細く「チッ、チッ」と鳴いたり、秋冬には「チュリーン」「チュウイー」と鳴いたりする。

類似種と区別点：コジュリン、シベリアジュリン。

コジュリンは白い頬線がなく、後頸も白くない。シベリアジュリンは淡い灰黄褐色の体。



オオジュリンのメスか冬羽のオス



オオジュリンのオス。黒い頭・顔とのど、襟巻きのような白が目立つ



オオジュリン。メスか冬羽のオス

生息環境・分布

湿地とその周辺の草原。特に繁殖地では、ヨシ、クサヨシなどの草原を好む。

分布：ユーラシア大陸の中・高緯度に幅広く分布し繁殖し、特に西部に多い。冬は同大陸南部やインド、中東、アフリカ北部に飛来する。

日本では北海道、青森、秋田で繁殖する。本州南部には冬

鳥として飛来する。

北海道には夏鳥として4月上旬に渡来し、繁殖する。湿潤な草原に生息する。

十勝には、夏鳥として4月中旬に渡来。河川敷、湖沼周辺の湿潤な草原に生息し、繁殖する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期				繁殖								
本州以南 (越冬期)	越冬									越冬		

食性・他生物との関わり

ガの幼虫などの昆虫類、枯れたヨシの茎の中にあるワタムシ類。地上に落ちた種子も食べる。

ヨシ原の地上や茎で採食する。茎から茎へと移動しながらガの幼虫などを捕らえる。ワタムシ類を食うときには、枯れたヨシの茎にとまって葉鞘（ようしょう：葉を茎に止めているさやのような部分）をむしったりはぎ取ったりして取り出す。（→興味深い話の項参照）

捕食者は猛禽類など。



縦の茎にとまるのがうまいオオジュリン（オス）

繁殖生態

繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖する。なわばりを作り、巣はその中にある。オスはさえざるとき、低木のてっぺんなどにとまり、興奮してくると首の白い羽毛を逆立てる。（→興味深い話の項参照）

巣は草株の根元の地上や草株の上、あるいは藪の小枝の中などに作られ、枯草などでお椀型に作られる。巣づくりはメスのみが行い、オスはその際メスについて回ってガード（メイトガード）するという。

4～5個産卵し、オスメス交替で卵を抱く。13～14日でヒナがかえり、両親の給餌によって育ち、10～13日で巣立つ。



首の白い羽毛を少し逆立てたオオジュリンのオス

興味深い話

■標識調査で、10年の生存が確認されている。

■越冬地ではパチパチと音を立ててくちばしでヨシの茎を割り、中で越冬している虫を探す。

■繁殖期は、主要行動圏が4,000～10,000㎡の比較的円形に作られ、その同心円状に1,000～3,000㎡のさえざり地域があるという。（→繁殖生態の項参照）

■オスは求愛ディスプレイ（誇示のための行動・動作）として、地上で翼と尾羽を開き、腰の白い羽毛を逆立てるという。（→繁殖生態の項参照）

■巣は場所によっては近くに集まり、採食に外へ出ていくという、ルーズなコロニー（集団営巣地）になることがあ

るという。（→繁殖生態の項参照）

■繁殖地では水湿地のヨシ草原からその周辺の丈の低いクサヨシヤスゲの草原で見られるが、同様の場所で見られるシマアオジに比べてより水辺の丈の高い草原にいるという。

■越冬地では数羽から十数羽のルーズな群れで過ごすという。

配慮事項

繁殖環境である、湿地とその周辺のヨシ草原が大事。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ボックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所、1996
「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997
「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987

中村登流・山岸哲・飯島一良・香川敏明 (1968) 泥炭地草原におけるホオジロ属の生活場所と行動圏の比較調査. 山階鳥研報、5 : 313-336.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシタカ